

埼玉県糖尿病相談員の皆様に 心よりエールを送ります

埼玉県糖尿病協会 会長
西部総合病院 院長 犬飼 敏彦



日本糖尿病協会(日糖協)はその事業目的に「糖尿病予防と療養についての知識普及」および「患者・家族等への療養支援」を掲げ、2000年に日本糖尿病療養指導士(CDEJ)認定機構の形でCDEネットワークを立ち上げました。その後、埼玉県糖尿病協会(埼玉糖協)は2016年に県単位組織での埼玉県糖尿病相談員(CDEL埼玉)を発足させました。既に第4期生までの認定を済ませており、約600名の有資格の方々が県内の医療機関あるいは介護施設で糖尿病相談員として活躍中です。本News Letter3号が発刊される秋季にはコロナ禍を乗り越え、第5期生認定講習会(昨年は募集中止)が開催予定(11月13日)です。

本Letterは森本二郎編集委員長の下、季刊号として協会関係者およびCDEL埼玉の方々にご執筆頂き、協会活動、糖尿病最新情報、CDEL埼玉の方の“生の声”を掲載しています。その意味において本Letterは埼玉糖協とCDEL埼玉の方々との貴重な“夢の架け橋”の役割を果たすと云っても過言ではないでしょう。

ところで、CDEL埼玉の方々からの“生の声”として、折角取得した資格が日々の仕事に十分に活かされず、資格の意味合いが薄らいでいるという声を少なからず耳にします。尚、この傾向は全国共通の様です。その要因の多くは各職場の環境事情、理解不足に起因していると思いますが、協会としても善後策を練る必要があります。一案として、定期的に当協会主催としてCDEL埼玉の方々同志の交流の場を設け、日々の経験談、問題点、悩み等を吐露し、忌憚のない意見交換を実現したいものです。また、顔合わせを兼ね、戸外にて一堂に会しウォークラリー等でのスタイルで一日一緒に汗を流すなどの機会を設定することも有意義かも知れません。この点に関しては皆様のお知恵を拝借し、是非実現したいと思っています。他方、相談員としての療養の知識・スキル維持の為、日糖協が提供している各ツールを活用することも有益でしょう。1)日糖協eラーニング、2)糖尿病カンパセーション・マップ、3)糖尿病療養指導カードシステムなどがあります。

埼玉県糖尿病相談員の皆様、是非、その資格を大いに活用しスキルを磨いて頂き、患者へ“寄り添う”気持ちを忘れずに日々の糖尿病療養にあたって下さい。埼玉糖協会長として皆様の益々のご活躍に心よりエールをお送りいたします。尚、広告掲載にご協力頂いています各メーカー企業の方々にはこの場をお借りして深謝いたします。



デジタル医療の大波

さいたま赤十字病院 糖尿病内分泌内科部長 生井 一之

1 コロナ禍によってもたらされた、貴重な進歩

コロナが蔓延して、もうすぐ3年がたつ。この間、社会はずいぶん変わったし、新しいワクチンの開発など、良かったこともある。一方、医療ひっ迫や社会生活の制限、なんとも言えない閉塞感、人とのつながりの希薄化など、医療、社会、メンタル面の課題も露呈した。その中で、貴重な進歩は、大幅に遅れていたデジタル化が進んだことであろう。今や、学会や講演会はオンライン聴講が当たり前になった。とても便利になったし、経済面でのメリット、専門医などの単位も取りやすくなった。もちろん、現地参加の魅力は重々ありますが。

糖尿病診療もデジタル化が急速に進歩し、ついていくのも大変だが、使っていると便利で結構面白い。今回は、糖尿病デジタル医療の進歩について概説したい。

2 デジタルヘルス、っていったい何？

図1は、デジタル医療の簡単な模式図です。医療機器からBluetoothなどの通信技術 (IoT: internet of things) モノのインター



ネット) でスマホにデータが飛び、クラウドに乗って、医療スタッフや家族などが、パソコンやスマホでリアルタイムにデータを共有できることです。IoT 搭載の自己血糖測定器、持続血糖モニター、体重計、血圧計、インスリンポンプ、スマートインスリンペンなどのデータがネットにつながり、情報共有できる時代となりました。

3 持続血糖モニター (CGM): リブレリンク、デクスコム G6

CGM は、糖尿病診療を激変させたと言ってもいいでしょう。血糖を連続的にモニターできることにより、夜間の血糖変動、特に低血糖対策に非常に有用です。食事や運動、インスリンをはじめとする薬剤の効果もリアルタイムで評価できます。

リブレはもうだいぶ普及していますが、スマホでスキャンしクラウド共有できるようになり (リブレリンク)、さらに便利になりました。患者さんも自身のデータ、特にアンビュラトリーグルコースプロファイル (AGP) とタイムインレンジ (TIR) が表示され血糖変動や血糖の範囲を視覚的にとらえることができます。医療者側としては、診療前にデータが確認できるメリットが大きいです。受診予定者のクラウドデータ (リブレ, G6, HCL ポンプ) を確認し、患者さんの問題点やその対策を予習し、診療に生かしますし、受診日の診療を効率的に進められます。緊急時にも非常に有用です。

リアルタイム CGM は、当科ではデクスコム G6 を導入しています。スキャンしなくても常時、スマホ (iPhone) やリーダーでグルコース値が見れます。大きなメリットは、低血糖 (予知も含めて) や高血糖のアラート機能があることです。

図2 リブレリンク・リブレビューシステム



4 人工知能 (AI) のついたインスリンポンプ: ミニメド 770G ハイブリッドクローズドループ (HCL) システム

いきなり横文字になりましたが、770G HCL ポンプは、いわば自動運転のイメージです。図3に示しますように、ポンプが患者さんの血糖変動を学習して (AI 技術)、血糖が下がれば基礎レートを下げたり、低血糖予知で止めたり (スマートガード)、高血糖になると基礎レートが自動的に上がります。血糖の波が穏やかになり、上手に使うと、高血糖も低血糖もなく、正常者に近い血糖プロフィールを達成できます。ボーラス (追加インスリン) は、炭水化物量

を入力すると、ポンプが自動的に適切なインスリン量を計算してくれます。使いこなすには、患者さんの理解度などが必要ですが、駆使できると最強の血糖管理マシーンになります。当科では、厳格な血糖管理が必要な1型糖尿病の妊婦さんには積極的に勧めています。最大の欠点は、医療費が高いことです。

その他、SMBG 機種など多数の健康関連データを取り込める、シンクヘルスを代表とする健康アプリも、クラウド共有できます。シンクヘルスは、食事の写真が時系列で表示できるので、栄養指導にとっても有用なツールです。

図3 770G HCLポンプ



<https://www.medtronic.com/jp-ja/healthcare-professionals/products/diabetes/insulin-pump-systems/minimed-770g.html>



第9回日本糖尿病協会年次学術集会に参加して

埼玉医科大学総合医療センター 薬剤部次長 齋藤 健一

去る2022年7月23日(土)～24日(日)に京都府の国立京都国際会館で開催された第9回日本糖尿病協会年次学術集会に参加してきました。プログラムとしては教育講演や一般演題の発表、スモールグループディスカッションなどがありました。その中で1日目のCDEL報告(ポスターセッション)と、2日目のCDE meetingについて報告します。

【CDEL 報告】

埼玉県糖尿病相談員(CDEL)制度の現状と課題を発表しました。昨年度はコロナ禍で制約がある中、更新のためのテスト形式講習会を開催したこと、相談員向け機関誌「彩の国ニュースレター」を刊行したこと、皆川先生のご尽力で「優しく、易しく、自分と向き合う」小冊子を発行したこと、Web講演会にも研修単位を付与したことなどの活動を報告しました。また、認定講習会を1年延期したため、相談員の推移は頭打ちであること、2022年度は第1期生が初めて5年の更新時期を迎えることを報告しました。今後の課題として集合研修が減り相談員同士の顔が見える機会が減っている中で、モチベーション維持のために支援する必要があること、事務局の負担軽減が必要であることを挙げました。発表をみていただいた方からはWebを含め研修会が沢山企画されて素晴らしいといった声をいただきました。また、他県の発表を拝見いたしました。CDELの更新者と新規の認定を増やすことにどの県も腐心しているようでした。

【CDE meeting】

私は「新規認定者数と更新率の向上」のテーマでグループディスカッションに参加しました。新規認定者数については、CDEL発足直後は多く、その後減少するか頭打ちという県が多数でした。討議のなかでCDELの魅力やCDEJとの違いについて話がありました。CDELの方が地域密着型で社会活動やウォークラリーを単位に入れている県が多く、仲間と参加することが楽しいと評価する人がいることがわかりました。コロナ禍で行事の中止が相次ぐ

中、CDELの横のつながりをどうやっていくかが課題であることも認識しました。全体の発表会では、CDELは施設内や地域で知名度が低いといったことや、インセンティブがないため続けるメリットを感じない方がいると

いった問題点が挙がり、改善案として、CDELの魅力・価値を発信する機会を作ることや、研究発表会の場を設けることも一つの方法であるという意見もありました。また、CDEL同士で自主的に横のつながりを持つことも大事であるという話もありました。埼玉県でも近隣の医療圏で横の繋がりはあるかと思いますが、この誌面を借りて情報交換ができれば良いなと思いました。

最後に日本糖尿病協会から、アドボカシー活動「糖尿病にまつわることを見直すプロジェクト」の協力についてお話がありました。最近よく耳にするのが「スティグマ」という言葉です。不名誉な烙印、恥、汚名を意味します。「療養」や「指導」は患者さんによってはスティグマになるという観点から学術集会の名称も「日本糖尿病療養指導学術集会」から「日本糖尿病協会年次学術集会」に変更されました。埼玉県ははじめからCDELを「療養指導士」と呼ばずに「相談員」としてきましたので、時代を先取りしているとお褒めの言葉をいただきました。

学術集会は来年も京都での開催が決まっています。ぜひ皆さんも参加していただきたいと思えます。夏の京都は暑いといいますが、埼玉の方がよほど暑いです。鴨川と一緒に涼みに行きましょう!



CDELを取得して

ナイス薬局 薬剤師 須田 弘子

私は、埼玉県糖尿病相談員(CDEL)を取得してもうすぐ5年になります。薬局の業務を通して、糖尿病の患者さんは年々増えていると感じていました。

生活習慣病の代表格である糖尿病は、治療と予防の両観点から薬剤師が積極的に関わるべき疾患の一つだと思っています。患者さんに対してより良い指導のためには、基本的なことはもちろん、続々と発表される新薬や新エビデンスについても理解を深めていく必要があります。

また、運動の必要性や栄養指導のアドバイスなど、薬物療法以外の面でも患者さんをサポートすることが大切だと思っています。

CDELのための講演会や研修会は、参加の目的がCDELの資格更新のためでもありますが、糖尿病に関する知識をさらに深めることができ、翌日から薬局での患者さんの指導に役立つものばかりでした。看護師や栄養士の方など多職種のメディカルスタッフとのグループディスカッションでは、患者さんへの支援に役立つ情報やアイデアが溢れていました。

新型コロナウイルスの影響で、会場での研修が困難になり、日本糖尿病協会のeラーニングやWebでの講演会の受講に代りました。でも、移動時間も気にしないので楽です。

糖尿病の治療は、患者さん自身が病気について理解し、積極的に治療に関わっていくことが重要です。薬剤師が服薬指導のなかで患者さんが抱えている疑問や不安を少しでも解消して差し上げることで、患者さんのアドヒアランスが向上できると思っています。

毎月送られてくる月刊糖尿病ライフ「さかえ」は、患者さん向けにわかりやすく、情報は最新でとても勉強になります。

私自身も食事や運動に注意を払い、日々研鑽を積んで患者さんに服薬指導をしていきたいと思えます。



ナイス薬局 スタッフ

埼玉県糖尿病協会事務局からのお知らせ

2023年1月より、会費請求書を送付しますので、必ず期日までにご対応いただきますよう、宜しくお願い致します。

尚、退会や住所変更のお手続きについては、下記ホームページより詳細をご確認ください。

<https://saitokyo.com/>

TEL:080-2382-4630

Continuous Glucose Monitoring

Dexcom G6

低血糖予測や高値/低値をアラート通知。
糖尿病患者さんを見守るリアルタイムCGM。

●掲載の画面画像はイメージです。
* 汎用モバイル機器 (Android™/iOS® 対応)。互換性のあるスマートデバイスは別売りです。dexcom.com/compatibility をご覧ください。
一般名称: グルコースモニタシステム 販売名: Dexcom G6 CGM システム 医療機器承認番号: 30200BZ100004000 特定保守管理医療機器
本製品のご使用の前に、添付文書、取扱説明書を必ずよくお読みの上、記述されている説明に従って使用してください。本製品の詳細は、添付文書および取扱説明書をご参照ください。



詳細は
ウェブサイト
をご覧ください



発売元 テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷2-44-1 www.terumo.co.jp

Dexcom は米国 Dexcom, Inc. の登録商標です。Dexcom G6 は米国 Dexcom, Inc. の商標です。
Android は Google LLC. の商標です。iOS は米国およびその他の国における Cisco System, Inc. およびその関連会社の商標または登録商標です。
記載されている社名、各種名称は、テルモ株式会社および各社の商標または登録商標です。
©テルモ株式会社 2022年5月



選択的SGLT2阻害剤—2型糖尿病治療剤— 薬価基準収載

ルセフィ錠 2.5mg・5mg
ルセフィODフィルム 2.5mg

ルセオグリフロジン水和物製剤
Lusefi® tablets 2.5mg・5mg
Lusefi® OD film 2.5mg


※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む注意事項等情報」等については、各製品の電子添文をご参照ください。

製造販売【文献請求先】
大正製薬株式会社
〒170-8633 東京都豊島区高田3-24-1
お問い合わせ先: ☎0120-591-818
メディカルインフォメーションセンター

2022年5月作成

まだないくすりを
創るしごと。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。  **astellas**
アステラス製薬株式会社



選択的SGLT2阻害剤—2型糖尿病・慢性心不全治療剤— 薬価基準収載

ジャディアンス®錠 10mg

選択的SGLT2阻害剤—2型糖尿病治療剤—
ジャディアンス®錠 25mg

Jardiance® エンパグリフロジン製剤

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む
注意事項等情報等については電子添文をご参照ください。

 **Boehringer
Ingelheim**

製造販売
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
東京都品川区大崎2丁目1番1号
資料請求先: DIセンター
0120-189-779

販売提携
日本イーライリリー株式会社
神戸市中央区磯上通5丁目1番28号



2022年4月作成 PP-JAR-JP-1623 